

# 令和8年産 美里地区の大豆情報第2号

【中耕・培土、追肥、雑草対策編】

宮城県美里農業改良普及センター

令和8年6月24日

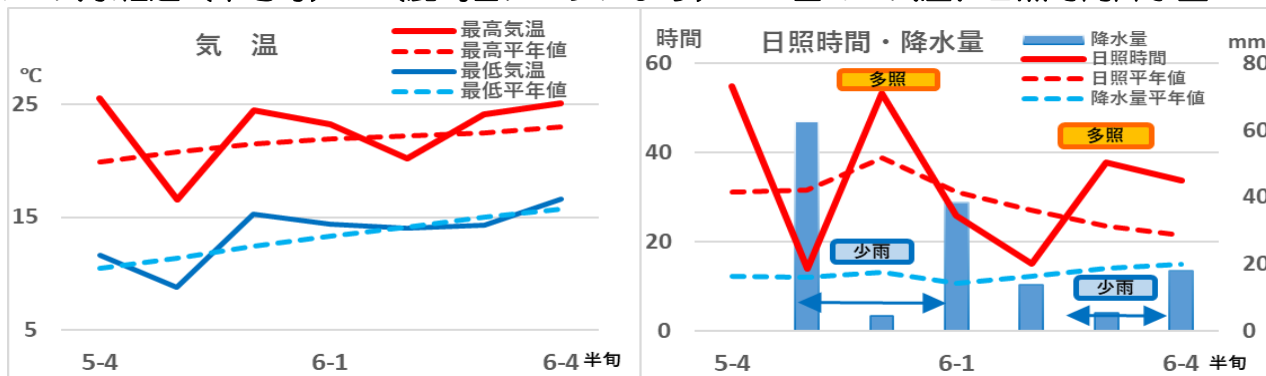
TEL:0229-32-3115

FAX:0229-32-2225

<https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>

## 1 気象経過（半旬毎）（鹿島台アメダスより）

図1 気温、日照時間降水量



5月下旬から6月中旬の天候は曇りや雨の日が多く、一時的に雨量の多い日がありました。気温は平年並みからやや高くなりました。

6月21日には低気圧や湿った空気の影響で鹿島台では78mmの大雨となりました。

## 2 栽培管理

### (1) 排水対策

6月20日に梅雨入りしました。湿害の影響を受けにくくするため暗きょ栓を開き、さらに、明きょと排水路が繋がっているかを確認しましょう。もしほ場に水が溜まっている場合は、排水路側畦畔を切るなどできるだけ早期の排水に努めましょう。

### (2) 中耕・培土 ～大豆の生育状況や雑草の発生状況を見ながら実施しましょう～

初生葉節が隠れる高さまで培土すると「不定根」が発生し、生育促進、倒伏防止、増収の効果や土壌通気性・排水性の改善、除草等の効果があります。

ただし、高い培土を一度に行うと断根や土壌の通気性を悪化させるので、大豆の生育に応じて2回程度に分けて実施しましょう。

#### ① 普通栽培

1回目：本葉2～3葉期に子葉節が隠れる高さまで

2回目：6～7葉期に初生葉が隠れる高さまで

#### ② 晩播栽培（麦後）

本葉5～6葉期に子葉節が隠れる高さまで

培土は大豆の根元が低くなるM字型にならないように土を寄せましょう

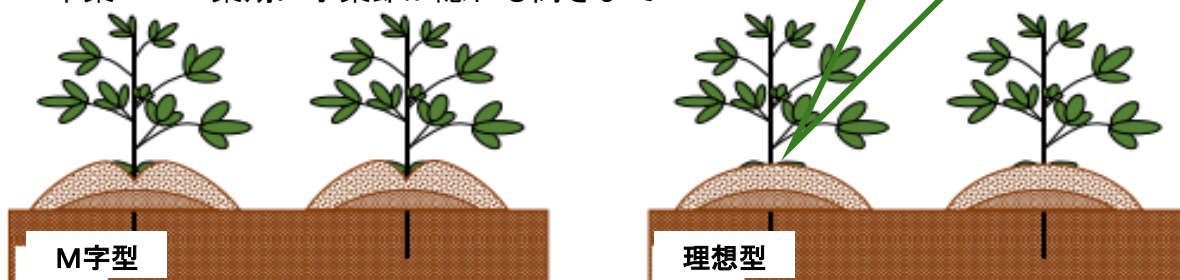


図2 中耕培土の模式図

(3) 追肥 ～元肥に被覆肥料(一発系)の肥料以外を使った場合に実施しましょう～

追肥は開花期から子実肥大肥にかけて、旺盛な生育がおこなわれる時期に窒素吸収を維持することを目的に行います。元肥に被覆肥料(一発系)以外を施用した場合は、最終培土期に被覆肥料(LP40等)を窒素成分で5kg/10a程度行いましょう。

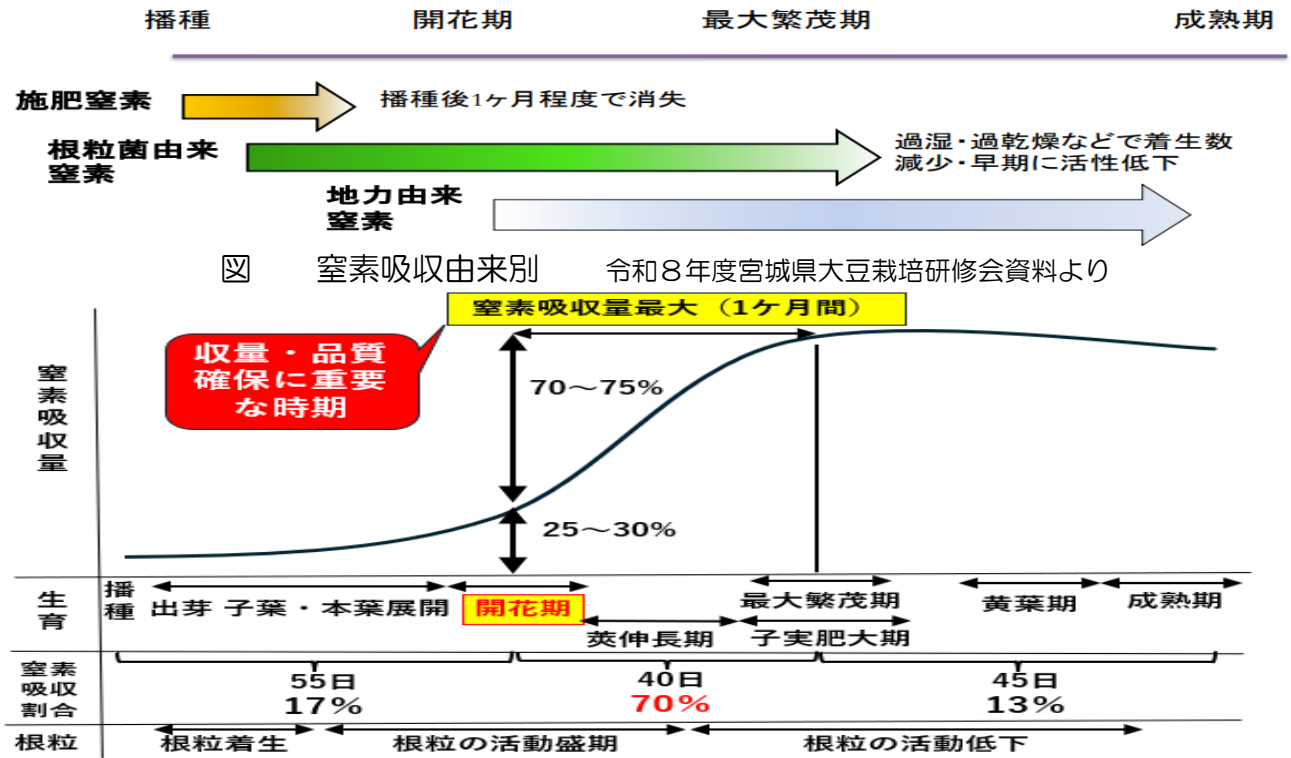


図3 大豆の窒素吸収 令和8年度宮城県大豆栽培研修会資料より

(4) 雑草対策 ～茎葉処理除草剤は適期(遅れず)に散布しましょう～

散布時期が遅くなるほど大豆の株間の雑草に薬液が付着しにくくなるとともに、葉齢の進んだ雑草の割合が多くなります。雑草の草種に合わせ、大豆3葉期を目安に防除を実施しましょう。また、大豆への薬害や雑草への効果を勘案しながら、各農薬の適用上の使用時期を守って散布しましょう。

表1 広葉対象茎葉処理剤による草種ごとの対策

農薬名	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	成分を含む農薬の総使用期限
パワーガイザー液剤	雑草茎葉散布 又は全面散布	出芽直前～3葉期まで(雑草発生始期～2葉期)	1回	2回以内(但し、畦間処理は1回以内)
	畦間雑草茎葉散布	生育期(雑草発生前期～2葉期)(但し、収穫30日前まで)		
大豆バサグラン液剤	雑草茎葉散布 又は全面散布	大豆の2葉期～開花前(雑草の生育初期～6葉期)(但し、収穫45日前まで)	1回	2回以内(但し、畦間処理は1回以内)
	畦間雑草茎葉散布	大豆の生育期(雑草の生育初期～6葉期)(但し、収穫45日前まで)		

図4 一般的な防除体系

大豆： 種子	2~3葉期	6~7葉期	生育期
管理： 播種	中耕培土①	中耕培土②	
除草剤： 土壤処理剤	← 茎葉処理剤 →		
← 畦間・株間処理剤（登録に合わせ） →			

※土壤処理剤の効果はほ場条件等でバラつく

※茎葉処理剤は何を使うか、雑草の種類や処理時期で判断（散布時期に注意）  
（アサガオ類などの難防除雑草は大豆2葉期頃から防除）

図5 管内の主な雑草と難防除雑草

写真出典：みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針



アメリカセンダングサ



オオイヌタデ



ホソアオゲイトウ

【主な難防除雑草】

①帰化アサガオ類

<p><b>マメアサガオ</b></p> <p>主な分布：関東以西</p> <p>特徴：晩生、葉は紫色をおびやすい。種子の形はややいびつ。</p>	 広くハの字型に開く	 ハート型で葉の縁が紫色	 直径2cm、白色まれにピンク色
<p><b>ホシアサガオ</b></p> <p>主な分布：関東以西</p> <p>特徴：晩生、花が数個かたまって咲く。種子の表面は平滑。</p>	 狭くハの字型に開く	 ハート型ではほぼ無毛	 直径2cm、ピンク色、花柄が長く、葉の上に飛び出て咲く

②オオオナモミ



**特徴**  
 鉤状のとげを付けた特徴的な果実（左上写真）を着ける。

### ③イヌホオズキ類



**特徴**  
分枝が斜めに多く発生し、横に大型化する。果実は7~10mm程度の球形。

### ④イチビ



**特徴**  
葉身はハート形大きく、毛が密生。花は2cm程度で黄色く花弁が5枚。果実（写真右上とその下）は熟すと黒くなる。

#### 【難防除雑草対策のポイント】

難防除雑草は種子の生産が多く種子の寿命が長いことが多い。出芽期間が長く土壌処理剤や茎葉処理剤（非選択性を除く）による効果が小さい。したがって、侵入初期の対策や拡散させない対策が重要となります。

- ① 侵入を確認したら侵入初期に手取りを含め徹底的に防除する。
- ② 難防除雑草発生ほ場での機械作業は最後に行い、作業後は機械を丁寧に清掃する。
- ③ 除草剤は大豆2~3葉期（雑草が小さいうちに）を目安に、早めに防除を実施する。
- ④ 残草が発生した場合は結実前に手取り除草を行い、種子をほ場に落とさない。

近年、雑草の発生が目立つほ場が増え、特に難防除雑草（帰化アサガオ類、アレチウリ等）の発生が多くなっています。発生している草種や発生量に合わせ体系防除に取り組み、雑草の発生を抑えましょう。

### 3 高温・乾燥対策

大豆は開花期から成熟期までが長く、一時的な高温は対応できますが長期間にわたると影響を回避できなくなります。この影響は生育ステージにより異なります（図）。天候による高温や乾燥は回避できないので、取れる対策で対応しましょう。

図6 生育ステージによる高温の影響

令和8年度宮城県大豆研修会資料を編集



時 期	影 響
播種時期	出芽不良
開花前後	粒数減（落花、結莢阻害）
子実肥大初期	粒数減＋小粒化（発育停止）
子実肥大	小粒化＋品質低下（裂皮等）
子実肥大後半	品質低下＋青立ちの発生



表2 生育ステージによる高温の影響

図7 青立ち

### 【高温・乾燥対策のポイント】

- ①7月に入り晴天が続き高温・乾燥が予想される場合は、開花前から暗きょ栓を閉じ水分保持に努めましょう。
- ②用水が確保できるほ場では明きょに水を入れ、弾丸暗きょを活用し、水を供給しましょう。
- ③速やかに排水が可能なほ場では畝間かん水などの対策を検討してください。

図8 畝間かん水の様子



※畝間かん水：排水溝や畝間内の土壌表面に染み出す程度まで通水

### 【畝間かん水を実施するに当たっての注意点】

- ①何筆も同時にすると水量が少なくなります。一筆ずつ順番に実施していきます。
- ②区画の大きいほ場は1回でかん水するのは困難です。数回に分けかん水して下さい。
- ③湛水状態になると逆効果となりますので、畦の上まで水が載らない様に留意してください。

◇◇◇農薬危害防止運動実施中（6月1日～8月31日）◇◇◇

### 農作業中の熱中症を予防しましょう！！

- 暑さを避ける  
～高温時の作業は極力避け、日陰や風通しの良い場所で作業～
- こまめな休息と水分補給  
～のどの渇きを感じる前に水分、塩分補給～
- 単独作業は避ける  
～複数名で作業を行う。時間を決め連絡を取り合う～
- 熱中症対策アイテムの活用  
～帽子や吸湿速乾性衣類の着用。空調服や送風機の活用～